



☆ 盛況だった…… ☆

☆ 九州連合畜産共進会 ☆

全九州畜産の祭典第11回「九州連合畜産共進会」は、去る12月4日から7日までの4日間、玉名市の玉名農業高校々庭で開かれた。

20年に1回しか熊本県にまわつてこない畜産共進会だけに、連日物産にぎわいを呈し、特にこの共進会のヤマである家畜品評会では、九州各県から221頭の家畜が集つて優劣を競つた。

■ 観衆の注目のうちに、比較審査が慎重に続けられる…… ☆



■ 九州各県からぞくぞくつめかけの人々…… ☆



■ 「可愛いナ」と山羊を見る水上副知事…… ☆

■ 畜産大会では功労者表彰や宣言などが行われた…… ☆



— たちあがる —

★ 天草被災地のその後

14号台風の来襲からすでに3カ月、大被害を受けた天草はその後どうなつたか？ 11日後に起つた伊勢湾台風災害に、人々の目が奪われがちだつたときにおいても、県と地元は一体になつて、復旧への地道な努力を続けてきた……

たち上りに
万全の策を

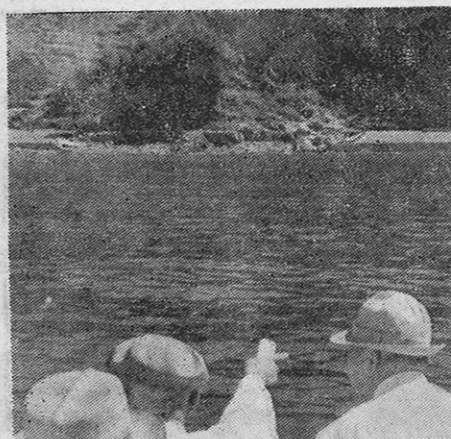
まず民生関係のみならず、災害救助法による「応急仮設住宅」三十戸も十月一杯には全部完成。家を失つた人々は、さ、やかながらも屋根の下でこの冬をしのげるわけである。保護を要する家庭には「生活保護法」の手がさしのべられた。たち上るにも資金がない。こんな人々には「厚生資金」「世帯厚生資金」の道が開かれた。二つの貸出件数は合計八十三件、金額にして約三〇万円が人々の再起の支えとなつている。このほか医療費貸付、母子福祉資金、引

災害を防いだテトラポット…… 下田海岸には約500個のテトラポットが工事のために置いてあつた。これが激浪をくいとめて、民家の被害を防いだという。



新春早々本格工事に

土木関係の復旧も着々と進んできた。特に道路の応急工事は早かつた。スタの海岸道路を約七五〇万円で緊急復旧し、早い処は十一日目の九月二十八日復旧、十月五日までには一応全路線開通というスピードぶり。道路、河川、港湾等の本省による国庫補助災害復旧工事の査定も十一月月上旬に終つたので、新春早々緊急を要する箇所から本格的工事にとりかゝる事になつてゐる。水産関係では漁船の被害が人々の胸を痛めた。漁船保険加入の分は、直ちに支払込保険金額の七割にあたる約一〇〇万円の仮払いがなされたし、各被災漁協



左写真の被害箇所も応急工事で10月5日からバスが通り始めた……

激浪で破壊された海岸道路……

も漁船建造資金の確保と早急な立上りに努力を続けている。又、船を失つた人々は残つた船の乗子となつて現在働いているが、さき頃国庫補助により一部の漁船に漁船を建造させ、共同利用の措置も講ぜられる事にもなつた。このほか漁港の復旧工事も近く着工の見込みである。耕地災害の復旧工事も、災害を防止できるように、改良を加えた工法がとられる。農業災害、商工業関係災害についても、県は直ちに関係方面と連絡をとつて各種の手を打ち万全を期した。ともあれ、復旧は新年と共に更に強力に、本格化する見込みである。

■ 集つた家畜の飼料をまかなう係はテンテコマイ……



応急仮設住宅の建設は急ピッチで進められた。(苓北町都呂々にて)……

